



取扱説明書

IP ADVANCED RADIO SYSTEM
TRANSCEIVER

IP100H

はじめに

1 ご使用の前に

2 基本操作

3 応用操作

4 別売品とその使いかた

5 ご参考に

さくいん

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LANのIEEE802.11n/a/b/g規格に準拠したトランシーバーです。

弊社製コントローラー*を利用して、IPネットワークを経由した音声通信やメッセージ通信ができます。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

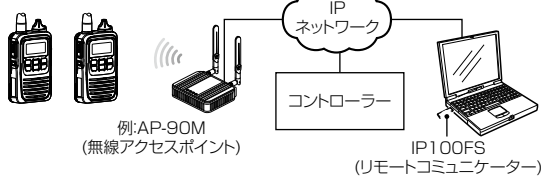
★2020年6月現在、IP100H、IP200Hを制御するコントローラーとして使用できるのは、IP1000C、AP-9500、VE-PG4です。

本書では、IP1000C、AP-9500、VE-PG4を「コントローラー」と表記します。

本製品の概要について

- ◎ IEEE802.11n/a/b/g規格に準拠しています。
- ◎ IPネットワークを経由した呼び出し(個別/グループ/全体)やメッセージの送受信*¹ができます。
※ご利用になるためには、弊社製コントローラーと無線アクセスポイントが必要です。
- ◎ 本製品からステータス情報(例：会議中)*¹を送信すると、コントローラーやIP100FS(リモートコミュニケーター)側で確認できます。
- ◎ 2種類(単信/複信)の通信方式*²に対応しています。
- ◎ IPX7(防浸形)*³の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック装着時に限る)
- ◎ 本製品は、免許不要・資格不要です。

【構築例】



- ★1 送信できるメッセージやプレゼンスは、あらかじめコントローラー側で設定された内容です。
- ★2 単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は電話のように同時通話できる方式です。
- ★3 「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

ユーザー登録について

インターネットから、<https://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部または全部を無断で複製/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

付属品について

- バッテリーパック*(BP-271)..... 1
- 急速充電器*(BC-202*)..... 1
- ACアダプター*(BC-123S:急速充電器用)..... 1
- ベルトクリップ*(MB-127)..... 1
- 外部アンテナ..... 1
- アンテナキャップ..... 1
- ハンドストラップ..... 1
- ご注意と保守について..... 1
- ご利用ガイド..... 1
- 保証書..... 1

※ 付属品の一部は、別売品(5章)としてもご用意しています。

★ お使いになる製品によっては、BC-202IP2が付属されています。

使用後はリサイクルへ



Li-ion

この製品は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

はじめに

防水性能について

バッテリーパックを本製品に正しく取り付けられた状態で、IPX7の防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカースピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防水性能について」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷した状態で使用したとき
- -10°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品にふれるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

日常のお手入れと点検について

◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

また、バッテリーパック(BP-271/BP-272)/バッテリーケース(BP-273)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 無線機本体、充電器、バッテリーパック/バッテリーケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。

各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 使用される前に、バッテリーパックの容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。

また、バッテリーパック、またはバッテリーケースなどがしっかりと装着されているか点検してください。

別売品の使用による防水性能について

バッテリーパック(BP-271/BP-272)を本製品に正しく取り付けられた状態で、IPX7の防水性能があります。

※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防塵/防水性能の低いものに制限されます。

別売品は、防水性能をご確認の上、ご使用ください。(5章)

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字の部分に「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IPX4(防まつ形)： いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形)： 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

海水が付着したときは?

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※バッテリーパック、アンテナ、保護カバーを無線機に正しく取り付けられた状態で洗浄してください。

※常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- ・無線機本体、ジャックの保護カバーが破損している場合
- ・落下などの強い衝撃を無線機に与えた場合

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎ アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎ 本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎ 雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホン、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。
- ◎ 蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎ 磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎ バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎ 本製品は、ネットワークの状態により音声途切れるなど音質が低下する場合、1秒以上の音声遅延が生じる場合があります。

◎ 本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

自動車運転時のご注意

- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎ 無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎ 安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

取扱説明書の内容について

本書では、あらかじめコントローラーと無線アクセスポイント側の設定が完了しているものとして説明しています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、各機能の詳しい設定などについては、弊社ホームページに掲載しているコントローラーの取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

※本書は、Ver. 2.20のファームウェアを使用して説明しています。

※本製品の使用、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

ファームウェアの自動更新について

本製品には、起動時に、ファームウェアの更新を確認する機能があります。

更新が完了すると、自動的に再起動します。

※ご利用開始直後にファームウェアが更新される場合があります。

※更新中は、本製品をご利用いただけませんのでご注意ください。(P.1-5)

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

- ◎ 5.2/5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。
- ◎ 本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けています。
したがって、本製品の使用については、無線局の免許は必要ありません。
- ◎ 本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- ◎ 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品を使用しないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎ 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎ 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- ◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。

Bluetooth®搭載機器との電波干渉について

Bluetooth 搭載機器は、2.4GHz 帯を使用しています。本製品を 2.4GHz 帯でご使用になるときは、Bluetooth 搭載機の近くで使用すると、混信して通信速度の低下や接続が不安定になることがあります。
電波干渉するときは、Bluetooth 搭載機器の無線伝送可能領域外で本製品をご使用いただくか、Bluetooth 搭載機器のご使用をお控えください。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

- 2.4GHz帯の無線LANで通信をするときは、次のことに注意してください。
- この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。
- ◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。
 - ◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。
 - ◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

2.4GHz現品表示記号の意味について

- 「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備
- 「DS/OF」 : DS-SS方式/OFDM方式
- 「4」 : 想定干渉距離が40m以下
- 「---」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

2.4DS/OF4

5GHzの無線通信チャンネルについて

右記の表示がある製品は、IEEE802.11a(W52/W53/W56)規格で採用された無線通信チャンネルに対応しています。

IEEE802.11b/g/n
IEEE802.11a/n
J52 W52/W53/W56

本製品が接続する無線アクセスポイントについても、この表示がある製品でご使用いただくことをおすすめします。

ご注意

5GHz帯(W53/W56)を使用する場合、無線アクセスポイント側でANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能が設定されていると、本製品は接続できません。

はじめに

もくじ

はじめに	i	3.応用操作	3-1
本製品の概要について	i	■ メッセージを送信するときは	3-2
ユーザー登録について	i	■ 受信したメッセージを確認するときは	3-3
登録商標/著作権について	i	■ プレゼンスを送信するときは	3-3
付属品について	i	■ 近隣呼出機能について	3-4
防水性能について	ii	■ トークグループ呼び出しについて	3-5
日常のお手入れと点検について	ii	■ 複数トークグループ機能について	3-6
別売品の使用による防水性能について	ii	■ [FUNC]キーでトークグループを選択する	3-7
IP表記について	ii	■ [アドレス帳]キーでトークグループを選択する	3-7
海水が付着したときは？	ii	■ [オプション]キーについて	3-8
取り扱い上のご注意	iii	■ ポケットビープ機能について	3-9
自動車運転時のご注意	iii	■ Pベル機能について	3-9
取扱説明書の内容について	iii	■ VOX機能について	3-10
ファームウェアの自動更新について	iii	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)について	3-11
無線LANの電波法についてのご注意	iv	■ Lone Worker機能について	3-12
Bluetooth®搭載機器との電波干渉について	iv	4.別売品とその使いかた	4-1
情報処理装置等電波障害自主規制について	iv	■ 別売品一覧	4-2
2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意	iv	■ 充電時間と運用時間の目安	4-3
2.4GHz現品表示記号の意味について	iv	■ 正しい充電のために	4-4
5GHzの無線通信チャンネルについて	iv	■ バッテリーパックの特性と寿命について	4-4
		■ バッテリーパックの膨らみについて	4-4
1.ご使用の前に	1-1	■ バッテリーケースについて	4-5
■ アンテナの取り付けかた	1-2	■ BC-202(急速充電器)で充電するには	4-6
■ ハンドストラップの取り付けかた	1-2	■ BC-211(6連急速充電器)で充電するには	4-6
■ ベルトクリップの取り付けかた	1-2	■ BC-202IP2(急速充電器)で充電するには	4-7
■ バッテリーパックの取り付けかた	1-2	■ BC-202IP3L(急速充電器)で充電するには	4-8
■ 電源の入れかたと音量調整のしかた	1-3	■ BC-202IP3Lの連結充電について	4-9
■ 各部の名称	1-4	■ 別売品の接続について	4-10
■ 表示部のアイコンについて	1-5	5.ご参考に	5-1
■ 操作キーについて	1-6	■ 故障かな?と思ったら	5-2
■ 電池の残量警告音について	1-7	■ アフターサービスについて	5-3
■ ロック機能について	1-7	■ 一般仕様	5-4
2.基本操作	2-1	■ 音声部	5-4
■ 交信のしかた	2-2	■ 無線LAN部	5-4
■ アドレス帳の使いかた	2-4	■ BC-202 急速充電器(別売品)	5-5
■ 履歴の使いかた	2-5	■ BC-202IP2 急速充電器(別売品)	5-5
		■ BC-202IP3L 急速充電器(別売品)	5-5
		■ BC-211 6連急速充電器(別売品)	5-5

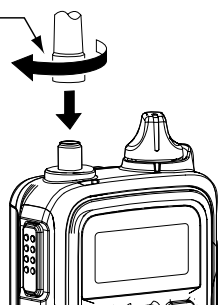
この章では、
本製品の基本的な使いかたや注意事項などについて説明しています。

■ アンテナの取り付けかた	1-2
■ ハンドストラップの取り付けかた	1-2
■ ベルトクリップの取り付けかた	1-2
■ バッテリーパックの取り付けかた	1-2
■ 電源の入れかたと音量調整のしかた	1-3
■ 各部の名称	1-4
■ 表示部のアイコンについて	1-5
■ 操作キーについて	1-6
■ 電池の残量警告音について	1-7
■ ロック機能について	1-7

1 ご使用の前に

■ アンテナの取り付けかた

この部分を
持って回します。



ご注意

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、付属の外部アンテナ以外は使用できません。

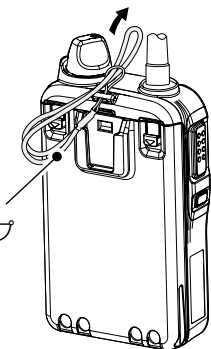
ご参考

内部アンテナと外部アンテナでは、通信距離が異なります。下記のようなときに、IP100Hの内部アンテナを使用します。

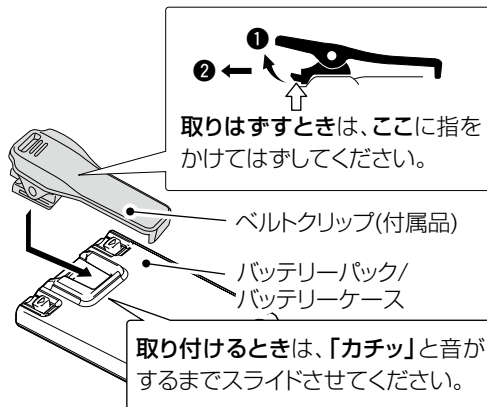
- ◎ IP100H から送信される電波が届く範囲を狭めたいとき
 - ◎ 通信エリアを制限してセキュリティを高めたいとき
 - ◎ 突起物がない状態で使いたいとき
- ※外部アンテナ(付属品)は、送信される電波を広範囲に届けたいときにご使用ください。

■ ハンドストラップの取り付けかた

ハンドストラップ
(付属品)



■ ベルトクリップの取り付けかた

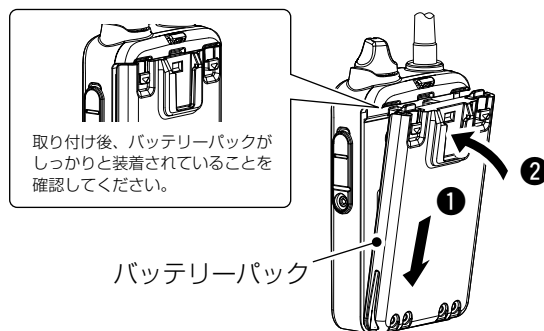


※バッテリーパック/バッテリーケースを無線機本体から取りはずした状態で、ベルトクリップを着脱してください。

■ バッテリーパックの取り付けかた

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

※充電方法については、4-6 ページ～ 4-7 ページをご覧ください。



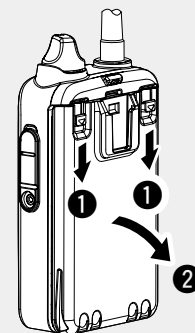
上図の手順(①～②)で、取り付けてください。

△注意

しばらく使用しないときは、バッテリーパックを無線機本体から必ず取りはずしてください。

本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

※本製品の電源を切ってから、右図の手順(①～②)で、バッテリーパックを取りはずしてください。



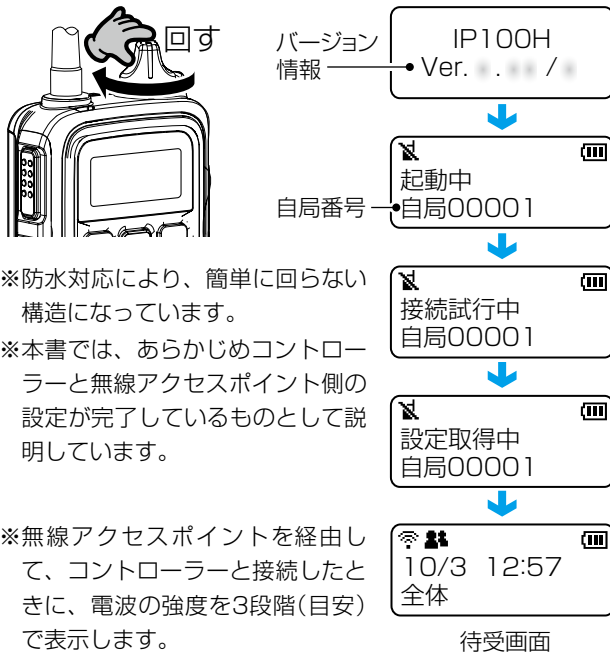
1 ご使用の前に

■ 電源の入れかたと音量調整のしかた

1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- 「カチッ」と音がして、「ピー」と鳴ります。



※防水対応により、簡単に回らない構造になっています。

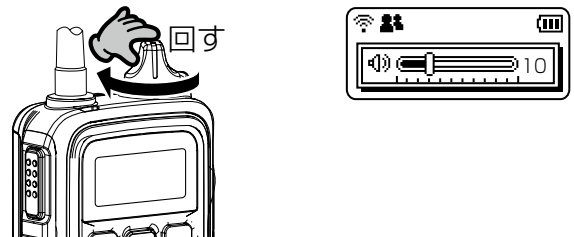
※本書では、あらかじめコントローラーと無線アクセスポイント側の設定が完了しているものとして説明しています。

※無線アクセスポイントを経由して、コントローラーと接続したときに、電波の強度を3段階(目安)で表示します。

コントローラー側で通信圏外通知音機能が設定されている場合は、圏外や圏内復帰を通知音でお知らせします。

2 音量を調整する

[電源/音量]ツマミを回すと、音量が調整できます。相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。調整できる範囲は、「0~32」です。



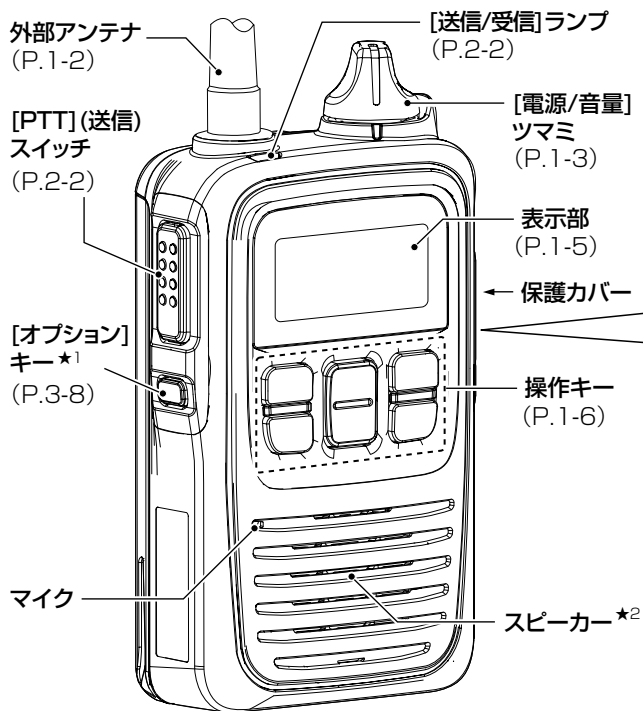
※音量が最小のときは、操作音(ブープ音)や受信した音声聞こえません。

ご注意

電源を入れたあと、待受画面が表示されないときは、5-2 ページをご覧ください、またはシステムの管理者にお問い合わせください。

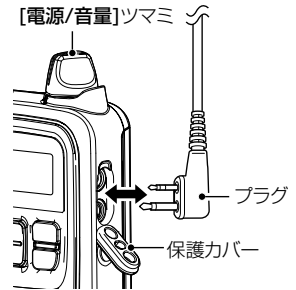
1 ご使用の前に

■各部の名称



別売品を接続するときは

- ◎接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
- ◎プラグ本体を持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、プラグを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーをしっかりと閉じた状態でご使用ください。



別売品取り付け時



★1 コントローラー側で機能を設定されている場合に使用できます。

★2 別売品のスピーカーマイクロホン(5章)などを接続したときは、動作しません。

※本書中の画面は、設定によって、お使いになるものと多少異なる場合があります。

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

1 ご使用の前に

■表示部のアイコンについて



待受画面



メッセージ受信時



電波状態表示

電波の強度を3段階(目安)で表示します。

※無線アクセスポイントに接続できていないときは

点滅(圏外)、コントローラーと接続できていないときは点灯(未レジスト)を表示します。



呼び出しモード表示

全体/グループ呼び出し

トークグループ呼び出し*(P.3-5)

個別呼び出し

電話(発信/着信)

※呼び出しやメッセージを受信したときは、アイコンが点滅します。



近隣呼出機能表示*(P.3-4)



ポケットビープ機能表示*(P.3-9)



Pベル機能表示*(P.3-9)



ロック機能表示(P.1-7)



電池残量表示

電池の残量(目安)を4段階で表示します。


※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックを充電してください。(P.4-6、P.4-7)



十分 残量あり 残量小 残量なし

(早めに充電) (要充電)

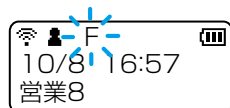
※バッテリーケース(別売品:BP-273)を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池残量表示は「」のままです。

★ コントローラー側で機能を設定されている場合に使用できます。

「F」が表示されたときは

本製品の表示部で「F」表示が点滅しているときは、新しいファームウェアをダウンロード中です。更新の準備が完了すると、自動的に再起動して、ファームウェアを更新します。



※更新の準備に失敗したときは再起動しません。
必要に応じて、電源を入れなおして再起動してください。

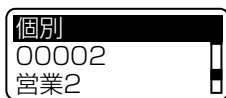
1 ご使用の前に

■操作キーについて

[アドレス帳]キー★



アドレス帳を利用して、送信するときに操作します。
キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ★)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。



(アドレス帳：個別)

[履歴]キー



短押し

キーを押すごとに、履歴★が切り替わります。
※表示される履歴は、送信、受信、メッセージ送信★、メッセージ受信、電話発信★、電話着信★です。

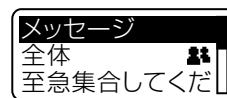
長押し

迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出し★するときに操作します。
※「緊急」と表示されるまで、キーを長く押します。(P.3-11)

[FUNC]キー★



送信するメッセージやプレゼンス、近隣呼出機能の ON/OFF、所属するトークグループを選択★するときに操作します。



(メッセージ選択画面)

[CLR/LOCK]キー



短押し

メッセージや履歴などの選択画面から、待受画面に戻ります。

長押し

ロック機能を ON/OFF します。

※ [PTT] (送信) スイッチと [電源/音量] ツマミは、ロック中でも使用できます。

[▲]/[▼]キー




アドレス帳や履歴画面内などを上下にスクロール移動するために使用します。

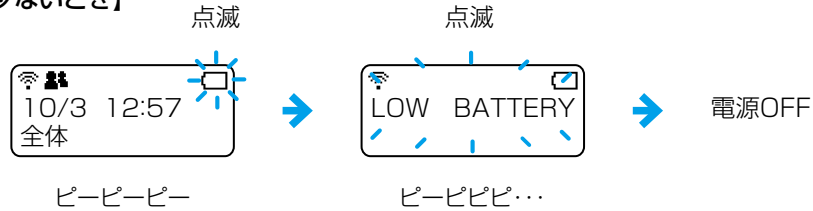
★コントローラー側で機能を設定されている場合に使用できます。


1 ご使用の前に

■ 電池の残量警告音について

電池の残量表示が「」になると、残量警告音「ピーピーピー」が約30秒ごとに鳴ります。警告音が鳴り出したら、本製品の電源を切り、すぐに充電してください。(P.4-6、P.4-7)

【電池残量が極端に少ないとき】



※残量表示が「」の状態で使用をつづけると、「LOW BATTERY」が表示され、残量警告音「ピーピピピピ…」が2秒間鳴りつづけたあと、電源が自動的に切れます。


※バッテリーケースを装着しているときは、残量警告音は鳴りません。
アルカリ乾電池が消耗すると、電源が切れたり、再起動を繰り返したりします。

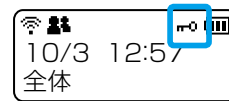
■ ロック機能について

不用意に本製品のキーやスイッチに触れても、設定や表示が変わらないようにします。

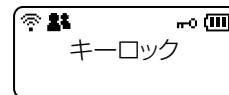
※ロック中でも緊急呼び出し(P.3-11)を操作できます。

[CLR/LOCK]キーを長く(約1秒)押します。

- ビープ音が「ピピッ」と鳴って、「」が点灯します。
※同じ操作をすると、ロックを解除できます。
※[PTT] (送信)スイッチと[電源/音量]ツマミは、ロック中でも使用できます。



待受画面



キー操作時

この章では、
本製品を無線機として利用するための基本操作を説明しています。

■ 交信のしかた	2-2
■ アドレス帳の使いかた	2-4
■ 履歴の使いかた	2-5

2 基本操作

■ 交信のしかた

1 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送信/受信] ランプが赤色に点灯します。



【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



【連続送信について】

[PTT] (送信) スイッチが押しつづけられる場合など、不用意な送信を防止するために、タイマーが設定されています。

コントローラー側で設定した連続送信時間を超えると、自動的に送信を停止しますので、通話を再開するには再度 [PTT] (送信) スイッチを押してください。

【操作時の確認音について】

コントローラー側の設定により、キーやスイッチを操作したときに確認音が鳴ります。

2 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声聞こえます。

- 受信中は、[送信/受信] ランプが緑色に点灯します。
※アイコン点滅時は、新規着信を示します。(下図参照)
※待ち受け状態のときは、[送信/受信] ランプが消灯しています。
※送受信状態 (複信通信時) のときは、[送信/受信] ランプが橙色に点灯します。



【通知音について】

コントローラー側の設定により、受信や圏外などを音で確認できます。

【バイブレーション機能について】

コントローラー側の受信通知設定でバイブレーション機能が設定されている場合は、振動でも受信を確認できます。

【受信音声ミュート機能について】

コントローラー側で受信音声ミュート機能が設定されている場合、[オプション] キーを長く (約1秒) 押し、受信した音声 (通知音は除く) をミュートできます。

2 基本操作

■ 交信のしかた(つづき)

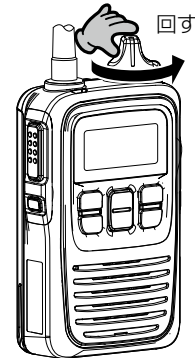
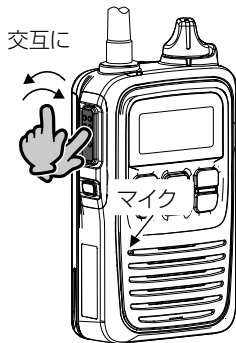
3 通話をつづける

送信と受信を交互にします。

※相手が送信しているときは、[PTT](送信)スイッチを押しても混信防止機能が動作して、ビープ音が「ブップッ…」と鳴りつづき、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



【電源を切るときは】

【電源/音量】ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回します。

- 電源を切る前の通話相手を記憶して電源が切れます。
- ※電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

【複信通信の場合】

コントローラー側で複信通信が設定されている場合は、本製品に別売品のマイクロホン(HM-153LS/HM-153^{★1}、HM-166LS/HM-166^{★1}、HS-85^{★1})やヘッドセット(HS-102^{★2})を接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

★1 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。

★2 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

【バックライトについて】

本製品のバックライトは、コントローラー側の設定により下記のように動作します。

- ◎常時消灯 : バックライトが点灯しません。
- ◎常時点灯 : 常にバックライトが点灯します。
- ◎操作時点灯 : 新規着信時、または[PTT](送信)スイッチ以外を操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。
(音量操作時を除く)

2 基本操作

■ アドレス帳の使いかた

コントローラー側で、本製品のアドレス帳と【アドレス帳】キーが設定されている場合に使用できます。

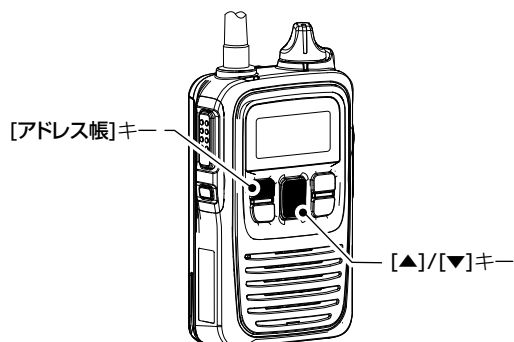
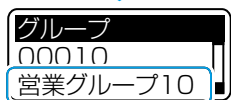
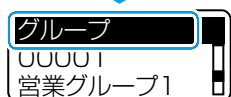
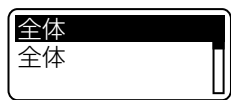
1 アドレス帳から相手先を選択する

①【アドレス帳】キーを押して、呼出種別(例：グループ)を選択します。

※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ*)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。

★トークグループは、3-5ページをご覧ください。

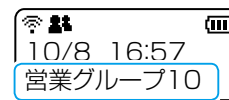
②【▲】/【▼】キーを押して、相手先(例：営業グループ10)を選択します。



2 【PTT】(送信)スイッチを押す

【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

●【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送信/受信】ランプが赤色に点灯します。



グループ呼び出し
選択時

【送信/受信】ランプが赤色に点灯

押しつづける



【全体/グループ呼び出しの場合】

コントローラー側の呼出先設定で、呼び出し先ごとの設定が必要です。

2 基本操作

■ 履歴の使いかた

コントローラー側で、本製品の[履歴]キーが「有効」に設定されている場合に使用できます。

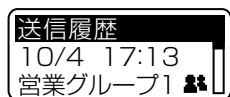
※各履歴は10件まで記憶され、10件を超えると、古い履歴から自動的に消去されます。

1 履歴から通話相手を選択する

① [履歴]キーを押して、履歴(例：受信履歴)を選択します。

※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信と、履歴が切り替わります。

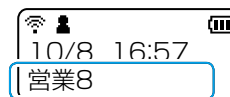
② [▲]/[▼]キーを押して、相手先(例：営業8)を選択します。



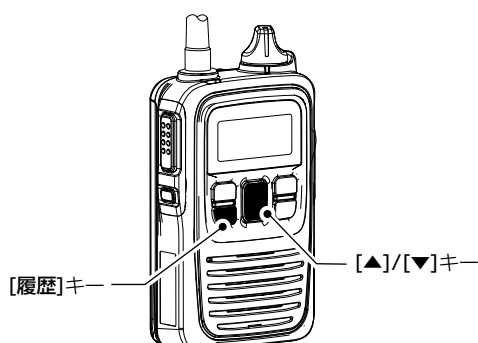
2 [PTT](送信)スイッチを押す

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

● [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[送信/受信]ランプが赤色に点灯します。



個別呼び出し選択時



[送信/受信]ランプが赤色に点灯

押しつづける



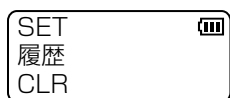
【履歴を消去するときは】

① [FUNC]キーを押しながら、[電源/音量]ツマミを時計方向に回して電源を入れます。

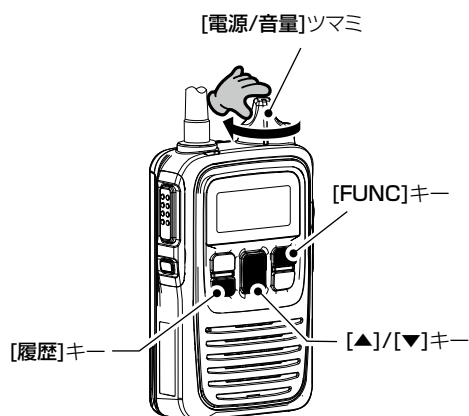
② 「SET」が表示されたら、[FUNC]キーから手をはなします。

③ [▲]/[▼]キーで「CLR」を選択し、[履歴]キーを押します。

● すべての履歴が消去されます。



CLR選択時



この章では、
メッセージなど、より便利に利用するための操作方法を説明しています。

■ メッセージを送信するときは	3-2
■ 受信したメッセージを確認するときは	3-3
■ プレゼンスを送信するときは	3-3
■ 近隣呼出機能について	3-4
■ トークグループ呼び出しについて	3-5
■ 複数トークグループ機能について	3-6
■ [FUNC]キーでトークグループを選択する	3-7
■ [アドレス帳]キーでトークグループを選択する	3-7
■ [オプション]キーについて	3-8
■ ポケットビープ機能について	3-9
■ Pベル機能について	3-9
■ VOX機能について	3-10
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)について	3-11
■ Lone Worker機能について	3-12

3 応用操作

■ メッセージを送信するときは

コントローラー側で、送信するメッセージ、[FUNC]キーの機能が設定されている場合に使用できます。

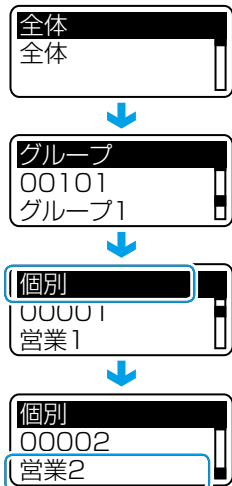
1 送信先を選択する

① [アドレス帳]キーを押して、呼出種別(例：個別)を選択します。

※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ★)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。

★トークグループは、3-5ページをご覧ください。

② [▲]/[▼]キーを押して、相手先(例：営業2)を選択します。



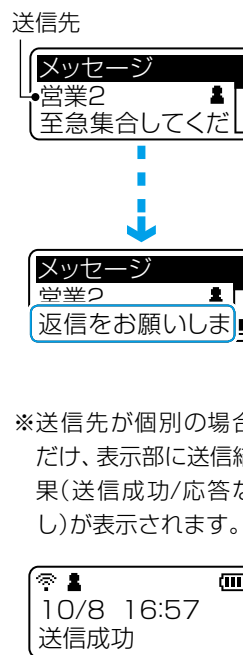
2 メッセージを選択して送信する

① [FUNC]キーを押して、メッセージを選択します。

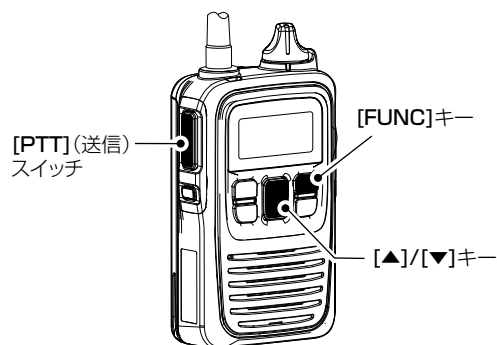
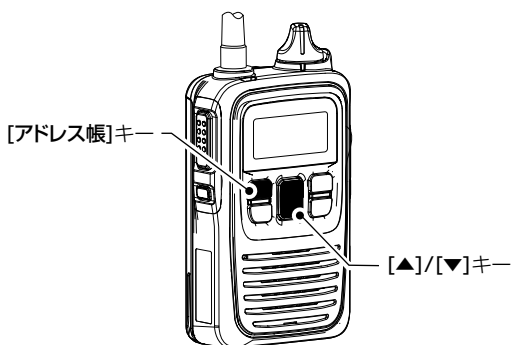
※キーを押すごとに、コントローラー側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。

② [▲]/[▼]キーを押して、送信するメッセージを選択します。

③ [PTT] (送信)スイッチを押します。



※送信先が個別の場合だけ、表示部に送信結果(送信成功/応答なし)が表示されます。



※送信先は履歴からも選択できます。(P.2-5)

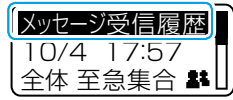
3 応用操作

■ 受信したメッセージを確認するときは

コントローラー側で、**[履歴]**キーの機能が設定されている場合に使用できます。

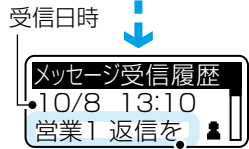
- ①**[履歴]**キーを押して、メッセージ受信履歴を選択します。

※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信と、履歴が切り替わります。

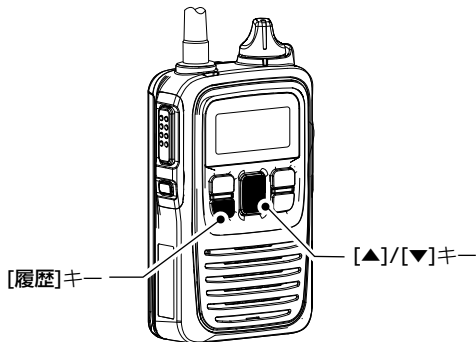


- ②**[▲]/[▼]**キーを押して、確認するメッセージを選択します。

※メッセージを受信していないときは、メッセージ受信履歴は表示されません。



スクロール表示
(送信元/メッセージの内容)

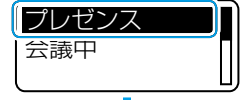


■ プレゼンスを送信するときは

コントローラー側で、送信するステータス(例:会議中/食事中)、**[FUNC]**キーの機能が設定されている場合に使用できます。

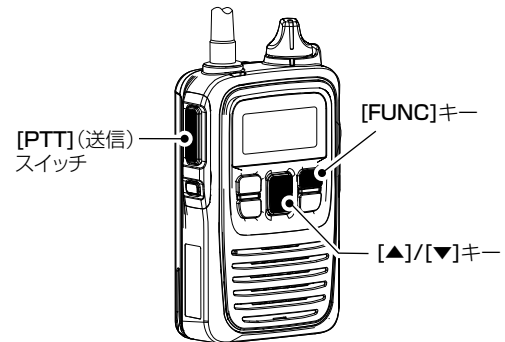
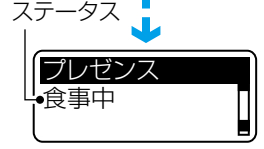
- ①**[FUNC]**キーを押して、プレゼンスを選択します。

※キーを押すごとに、コントローラー側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス)が表示されます。



- ②**[▲]/[▼]**キーを押して、送信するステータスを選択します。

- ③**[PTT]** (送信)スイッチを押します。



3 応用操作

■ 近隣呼出機能について

特定のエリア(例:1階フロア)に限定して運用するとき使用する機能です。

※コントローラー側で、エリア、[FUNC]キーの機能が設定されている場合に使用できます。

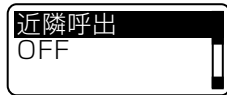
【使用例】1階フロア



1 近隣呼出機能をONにする


① [FUNC]キーを押して、近隣呼出を選択します。

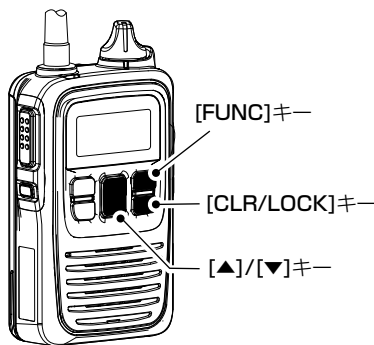
※キーを押すごとに、コントローラー側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。



② [▲]/[▼]キーを押して、ONを選択します。

③ [CLR/LOCK]キーを押します。

※近隣呼出機能をONにすると、「」が点灯します。



2 相手先を選択して送信する

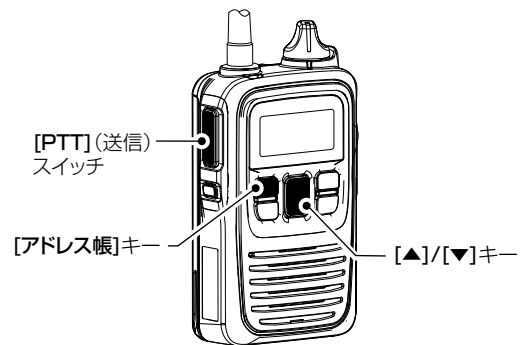
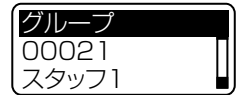
① [アドレス帳]キーを押して、呼出種別(例:グループ)を選択します。

※キーを押すごとに、全体⇒グループ(トークグループ*)⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。

★トークグループは、3-5ページをご覧ください。

② [▲]/[▼]キーを押して、相手先(例:スタッフ1)を選択します。

③ [PTT] (送信)スイッチを押します。



※送信先は履歴からも選択できます。(P.2-5)

3 応用操作

■ トークグループ呼び出しについて

どのグループに所属するかを、端末側で選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

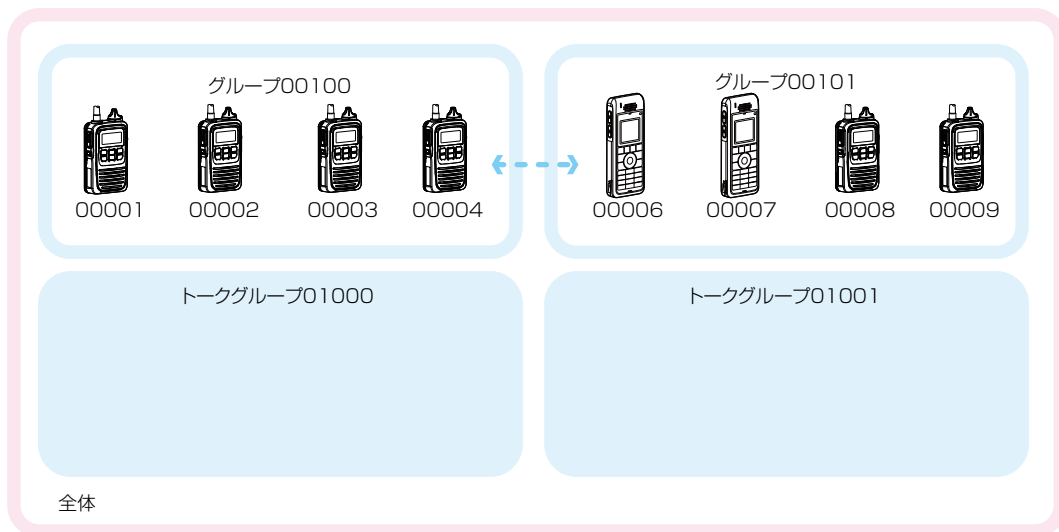
図のように、トークグループ(例:01000)を選択すると、その端末(例:00004)は通常のグループ(例:00100)からはずれます。

※コントローラー側で、トークグループ番号とトークグループを選択するキーが設定されている場合に使用できます。

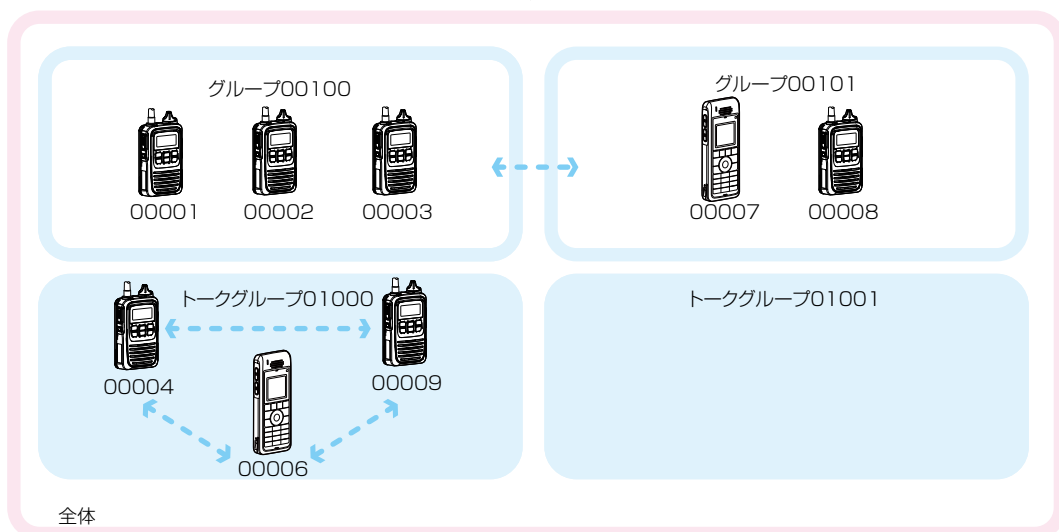
※複数トークグループ機能は3-6ページ、トークグループの選択方法は3-7ページをご覧ください。

※全体呼び出しの対象にトークグループを含めるかどうかは、コントローラー側で設定されます。

トークグループOFF時



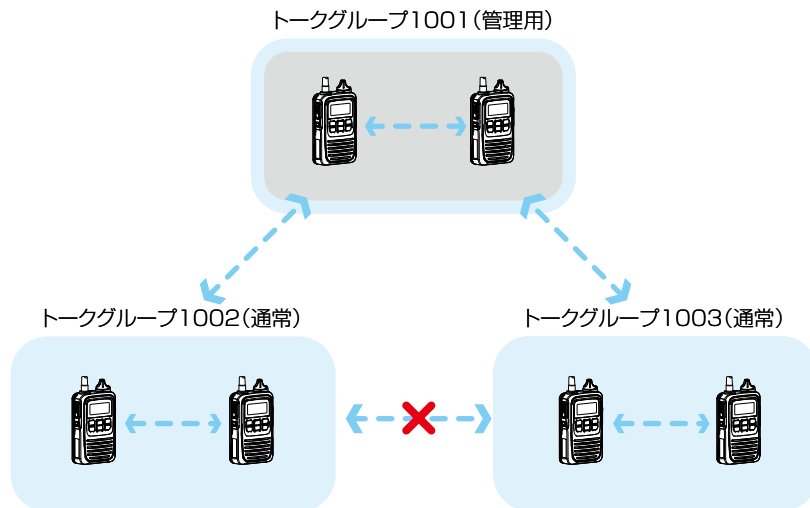
トークグループ選択時



3 応用操作

■ 複数トークグループ機能について

コントローラー側で、トークグループ種別が「管理用」に設定されているトークグループを選択した場合は、複数のトークグループと通話できます。



【例：トークグループ1002(通常)とトークグループ1003(通常)をトークグループ1001(管理用)に所属させた場合】

- ◎1001の呼び出しは、1001、1002、1003に所属している端末が呼び出される
- ◎1002の呼び出しは、1001、1002に所属している端末が呼び出される
- ◎1003の呼び出しは、1001、1003に所属している端末が呼び出される

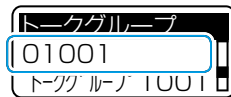
3 応用操作

■ [FUNC]キーでトークグループを選択する

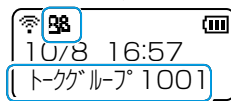
コントローラー側で、トークグループ番号、トークグループの選択で[FUNC]キーが設定されている場合に使用できます。

- ① [FUNC]キーを押して、トークグループを選択します。

※キーを押すごとに、コントローラー側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス)が表示されます。



- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

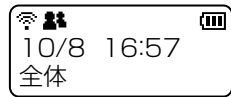


- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。同じグループ番号(例:01001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。

※トークグループ選択時、通常のグループ呼び出しは使用できません。

※トークグループを解除するときは、手順②でOFFを選択します。

トークグループ
選択時の待受画面



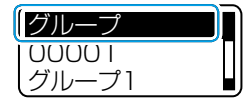
(待受画面)

■ [アドレス帳]キーでトークグループを選択する

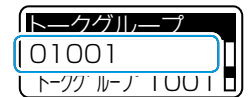
コントローラー側で、トークグループ番号、トークグループの選択で[アドレス帳]キーが設定されている場合に使用できます。

- ① [アドレス帳]キーを押して、グループ(トークグループ)を選択します。

※キーを押すごとに、呼出種別が切り替わります。



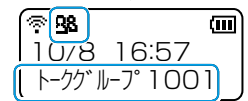
- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。



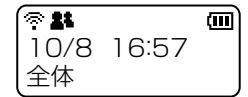
- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。同じグループ番号(例:01001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。

※トークグループ選択時、通常のグループ呼び出しは使用できません。

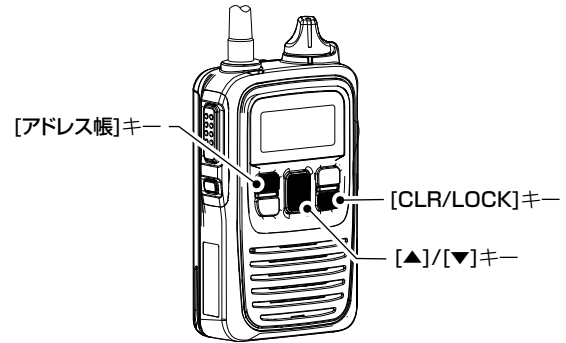
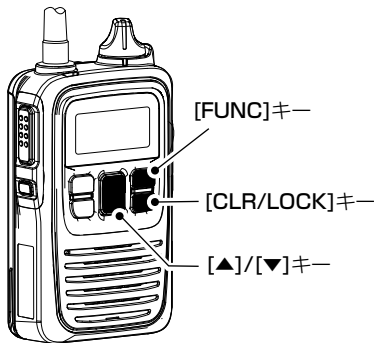
※手順②で通常のグループを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ
選択時の待受画面



(待受画面)



3 応用操作

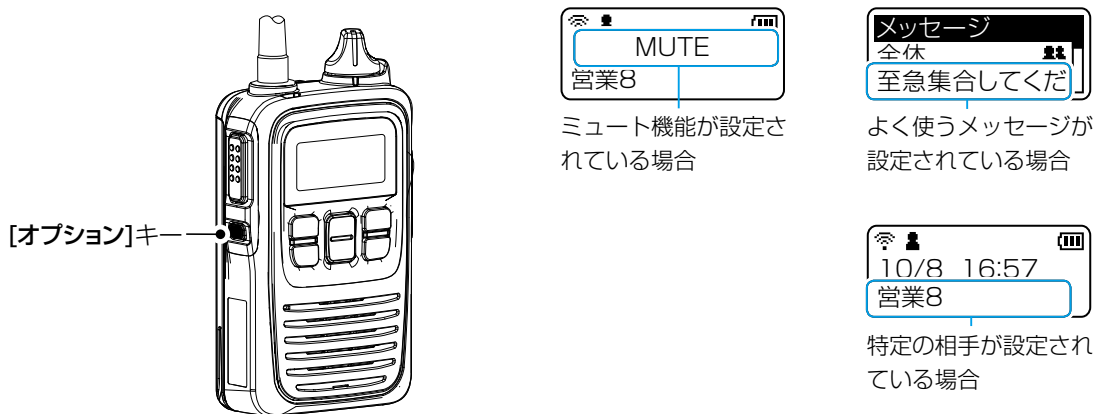
■ [オプション]キーについて

よく使うメッセージや特定の相手をワンタッチで選択するとき、または電話を切るときなどに使用するキーです。コントローラー側で、[オプション]キーに機能が設定されている場合に使用できます。

割り当てられる機能について

メッセージ	[オプション]キーを押して、よく使うメッセージを選択したいとき
ワンタッチ	[オプション]キーを押して、特定の呼出種別、または相手を選択したいとき
電話切断	[オプション]キーを押して、IP100Hから電話を切りたいとき ※電話と通話する場合は、別途VE-PG3などが必要になります。 ※相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。 ※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。
受信音声ミュート	受信した音声(通知音は除く)をミュートしたいとき ※[オプション]キーを長く(約1秒)押すごとに、ミュート機能をON/OFFできます。 ※[PTT](送信)スイッチを押しても、ミュート機能を解除できます。
エマージェンシー	迅速な連絡が必要な場合など、緊急呼び出しをしたいとき(P.3-11) ※「緊急」と表示されるまで、[オプション]キーを長く押しします。 ※下記の場合に、緊急呼び出しが解除されます。 ◎相手から応答があったとき★ ◎「緊急」の表示が消えるまで[オプション]キーを長く押したとき★ ◎本製品の電源を切ったとき ◎あらかじめ設定されている自動解除時間が経過したとき★

★コントローラー側で設定されている場合に有効です。





3 応用操作

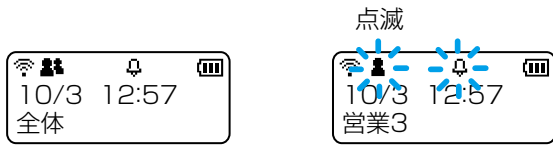
■ ポケットビープ機能について

呼び出しを受けたときに、受信通知音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

※この機能は、コントローラー側で設定します。

ポケットビープ機能が設定されているときは、「」が点灯します。

個別呼出で呼び出しを受けると、「」の点滅でお知らせします。



待受画面

個別呼び出し受信時


■ Pベル機能について

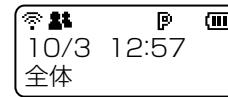
呼び出しを受けたときに、受信通知音でお知らせする機能です。

応答するまで、相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※[PTT(送信)]スイッチを押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声が聞こえます。

※この機能は、コントローラー側で設定します。

Pベル機能が設定されているときは、「」が点灯します。



待受画面

3 応用操作

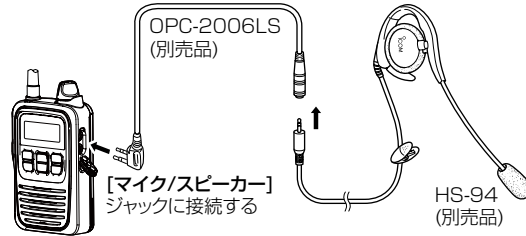
■ VOX機能について

本製品は【PTT】(送信)スイッチを押さずに、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を搭載しています。

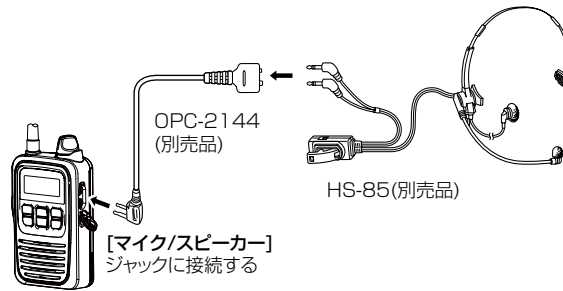
※この機能は、コントローラー側で設定します。

※下図のように、本製品に別売品の変換ケーブルと、ヘッドセットを接続すると使用できます。(P.4-2、P.4-10)

※別売品の接続方法や注意点などは、4-10ページをご覧ください。

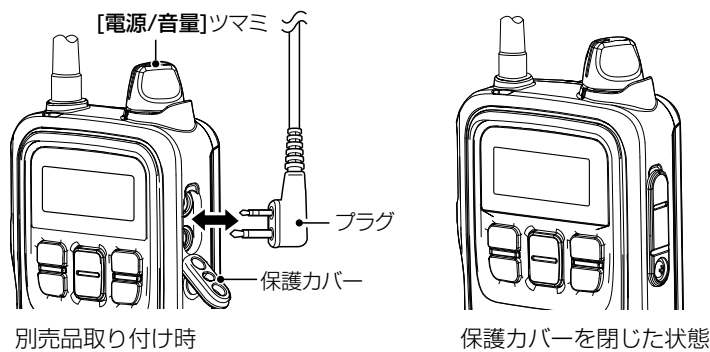


※別売品HS-85(生産終了品)はVOX機能が内蔵されていますので、本製品で使用する場合、コントローラー側でVOX機能を「無効」にする必要があります。



【ご注意】

- ◎接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
- ◎プラグ本体を持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、プラグを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、しっかりと保護カバーを閉じた状態でご使用ください。



3 応用操作

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)について

迅速な連絡が必要な場合など、あらかじめ設定されている相手に緊急呼び出しをする機能です。
コントローラー側で、**[オプション]**キー、または**[履歴]**キーに機能が設定されている場合に使用できます。

【緊急呼び出しをするときは】

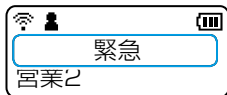
- ①「緊急」と表示されるまで、**[オプション]**キーを長く押しします。
 - 「緊急」が表示され、警告音(ピロピロ…)が一定の間隔で鳴ります。

※**[履歴]**キーに機能が設定されている場合も、**[オプション]**キーと同様に操作できます。

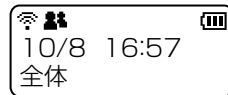
※コントローラー側で警告音が無効に設定されている場合は、警告音や緊急表示は動作しません。
- ②「緊急」表示の状態で、応答を待ちます。
 - 応答があると、警告音(ピロピロ…)が停止し、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯します。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻り★ます。

※緊急呼び出しを解除するときは、「緊急」の表示が消えるまで**[オプション]**キーを長く押し★、または本製品の電源を切ってください。

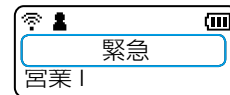
★コントローラー側で設定されている場合に有効です。



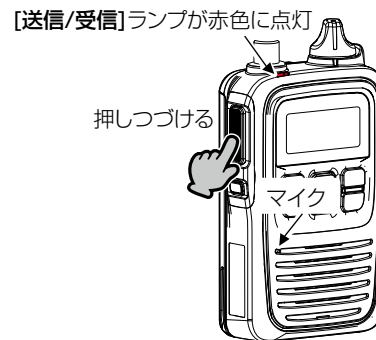
緊急呼び出し表示



緊急呼び出し
(警告音無効時)



緊急呼び出し受信中



ご注意

本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。
電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。
緊急呼び出し機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

3 応用操作

■ Lone Worker機能について

本製品を一定時間操作しなかった場合、Lone Worker機能が動作します。

Lone Worker機能が動作すると、緊急呼び出し機能(P.3-11)が自動的に動作します。

警備中など定期連絡を義務付けている場合に、何らかの事故が発生して連絡ができなかったときに便利な機能です。

※コントローラー側で、Lone Worker機能が設定されている場合に使用できます。

ご注意

本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。

電池の消耗や電波環境、無線アクセスポイントやネットワークの状態など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。

Lone Worker機能は、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

この章では、
本製品で使用できる別売品について説明しています。

■ 別売品一覧	4-2
■ 充電時間と運用時間の目安	4-3
■ 正しい充電のために	4-4
■ バッテリーパックの特性と寿命について	4-4
■ バッテリーパックの膨らみについて	4-4
■ バッテリーケースについて	4-5
■ BC-202(急速充電器)で充電するには	4-6
■ BC-211(6連急速充電器)で充電するには	4-6
■ BC-202IP2(急速充電器)で充電するには	4-7
■ BC-202IP3L(急速充電器)で充電するには	4-8
■ BC-202IP3Lの連結充電について	4-9
■ 別売品の接続について	4-10

4 別売品とその使いかた

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> でも、別売品についてご覧いただけます。

無線機を保護する	接続する
LC-181 : ソフトケース	OPC-2006LS : VOX機能用変換ケーブル OPC-2144 : スリムL型プラグ変換ケーブル OPC-2328 : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル OPC-2359 : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル OPC-2277LS ^{★5} : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル OPC-2375LS : イヤホン接続用変換ケーブル OPC-478UC ^{★3} : クローニングケーブル
バッテリー関係	スピーカーマイクロホン関係
BP-271 ^{★1} : リチウムイオンバッテリーパック (Min: 1150mAh、Typ: 1200mAh) BP-272 ^{★1} : リチウムイオンバッテリーパック (Min: 1880mAh、Typ: 2000mAh) BP-273 ^{★2} : バッテリーケース (単3形アルカリ乾電池×3本)	HM-153 ^{★3} : イヤホンマイクロホン HM-166 ^{★3} : 小型イヤホンマイクロホン HM-186 ^{★3} : 小型スピーカーマイクロホン HM-153LS : イヤホンマイクロホン HM-166LS : 小型イヤホンマイクロホン HM-183LS ^{★1} : 防水形スピーカーマイクロホン HM-186LS : 小型スピーカーマイクロホン HM-104 ^{★5★6} : 単一指向性タイピン型マイクロホン HM-104A ^{★5★6} : 無指向性タイピン型マイクロホン
充電する	ヘッドセット関係
BC-202 : 急速充電器(BC-123S(L型)付属) BC-202IP2 : 急速充電器(BC-123S(L型)付属) BC-202IP3L : 急速充電器(最大6台連結可能) BC-211 : 6連急速充電器(BC-157S付属) BC-123S : ACアダプター (L型) (BC-202、BC-202IP2用) BC-123S #64 : ACアダプター (ストレート型) (BC-202IP3L 単体時) BC-157S : ACアダプター(BC-211用) BC-228 : ACアダプター(BC-202IP3L 連結時)	HS-85 ^{★3} : VOX機能付きヘッドセット HS-88 ^{★6} : ヘッドセット ※生産終了品 HS-94 ^{★7} : イヤーフック型ヘッドセット HS-95 ^{★7} : ネックアーム型ヘッドセット HS-97 ^{★7} : 咽喉マイクロホン HS-99 ^{★7} : 耳かけ式イヤホンマイク HS-102 ^{★8} : イヤホン型ヘッドセット
腰にかける	
MB-127 : ベルトクリップ	
イヤホン関係	
SP-13 ^{★3} : イヤホン(φ3.5mm) SP-16 ^{★4} : 耳かけ型イヤホン(φ3.5mm) ※SP-16B(黒色/ケーブル長: 約50cm) ※SP-16BW(黒色/ロングケーブル: 約1m) EH-14 : オープンエア型イヤホン(φ2.5mm) EH-15 : イヤホン(φ2.5mm) ※EH-15B(黒色) SP-28 : 耳かけ型イヤホン(φ2.5mm) SP-29 ^{★4} : 耳かけ型イヤホン(φ3.5mm) ※ケーブル長: 約97cm	

- ★1 IPX7の防塵/防水性能があります。
 - ★2 IPX4の防水性能があります。
 - ★3 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
 - ★4 OPC-2375LS(イヤホン接続用変換ケーブル)が必要です。
 - ★5 EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。
 - ★6 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
 - ★7 VOX機能を使用する場合はOPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)、通話スイッチを使用する場合はOPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
 - ★8 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
- ※上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.ii)をご覧ください。

【ご参考に】

本製品をパソコンから設定するためのソフトウェアとして、CS-IP100H(弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェア)があります。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

※このソフトウェアは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップをすることがあります。

バージョンアップの作業をする前に、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。

4 別売品とその使いかた

■ 充電時間と運用時間の目安

ご使用になるバッテリーパックや充電器によって、充電時間や運用時間が異なります。

※無線アクセスポイントの圏外やローミングを繰り返す環境では、運用時間は短くなります。

名称 定格項目	BP-271	BP-272
電池の種類	リチウムイオン	
電池の容量	1150mAh min. (1200mAh typ.)	1880mAh min. (2000mAh typ.)
出力電圧	7.4V	
寸法 (幅×高さ×奥行)	58×86.9×9.1	58×86.9×14.2
	突起物は含まず 単位：mm	

BC-202/BC-211使用時

名称 定格項目	BP-271	BP-272
運用時間	約27時間	約40時間
	送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で繰り返し運用した場合の目安	
充電時間	約2時間	約3.5時間

※本製品に付属しているバッテリーパックは、BP-271です。

※バッテリーパックの残量がなく、本製品の電源を切った状態で充電した場合の時間です。

※BC-202IP2、BC-202IP3Lで充電する場合、電池容量の約90%になると、充電が完了(充電ランプ:緑点灯)します。BC-202やBC-211で充電したときより、少し運用時間が短くなります。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

【バッテリーケースをご使用の場合】(別売品：BP-273)

市販のアルカリ乾電池をBP-273に入れて使用した場合の運用時間の目安です。

※BP-273の使用方法や注意事項については、4-5ページをご覧ください。

運用時間	約24時間	送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で繰り返し運用した場合の目安
------	-------	----------------------------------

※ 使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間が大きく異なることがあります。


また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

※ BP-273を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池の残量表示は「■」のままです。

4 別売品とその使いかた

■ 正しい充電のために

- ◎お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。
- ◎バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- ◎満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が  (残量あり) の状態になるまで使用し、無線機本体からバッテリーパックを取りはずして保管してください。
- ◎極端に高温、または低温の環境下やバッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器(別売品)は、次の環境でご使用ください。
BC-202(急速充電器) : 0~40℃
BC-202IP2(急速充電器) : 10~40℃
BC-202IP3L(急速充電器) : 10~40℃
BC-211(6連急速充電器) : 10~40℃
- ◎充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

△危険

- ◎充電するときは、必ず「別売品一覧表」(P.4-2)に記載の充電器をご使用ください。
- ◎指定(BP-271/BP-272)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎別紙の「ご注意と保守について」を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

■ バッテリーパックの特性と寿命について

- ◎バッテリーパックは、消耗品です。
充電できる回数は、300回~500回が目安です。
充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。
- ◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。
- ◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。
- ◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

■ バッテリーパックの膨らみについて

下記のような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

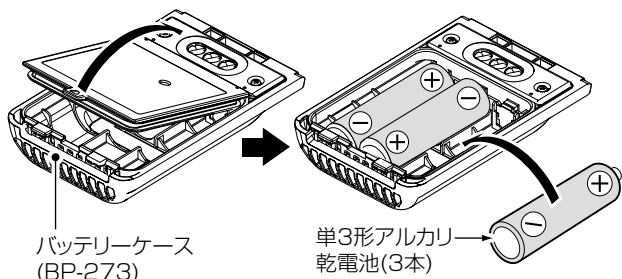
- ◎ ひんぱんに充電している
- ◎ 満充電直後でも再充電している
- ◎ 高温な場所で使用・保管している
- ◎ 本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

4 別売品とその使いかた

■ バッテリーケースについて

バッテリーケース(BP-273)のフタを開け、単3形アルカリ乾電池(3本)を入れます。



※本製品に装着するときの注意点などは、1-2ページの「**■** バッテリーパックの取り付けかた」をご覧ください。

【ご参考に】

バッテリーケース(BP-273)を、本製品に装着したときは、IPX4の防水性能に制限されます。

バッテリーケースを正しくご使用いただくために

△危険

バッテリーケース(BP-273)は、単3形アルカリ乾電池専用です。
マンガン乾電池や充電式電池は使用しないでください。
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

△注意

バッテリーケースを使用しないときは、バッテリーケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。
バッテリーケースは昇圧回路を内蔵しています。
そのため、バッテリーケースを使用していないときも微少な電流が流れるため、アルカリ乾電池が消耗する原因になることがあります。

- ◎単3形アルカリ乾電池の極性(⊕(プラス側)と⊖(マイナス側))を間違えないように入れてください。
- ◎バッテリーケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いたやわらかい布などで、電池端子部を定期的にふいてください。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

【乾電池の交換時期について】

バッテリーケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると、電源が切れたり、再起動を繰り返したりします。

このようなときは、3本とも新しい電池に交換してください。

※バッテリーケースを装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

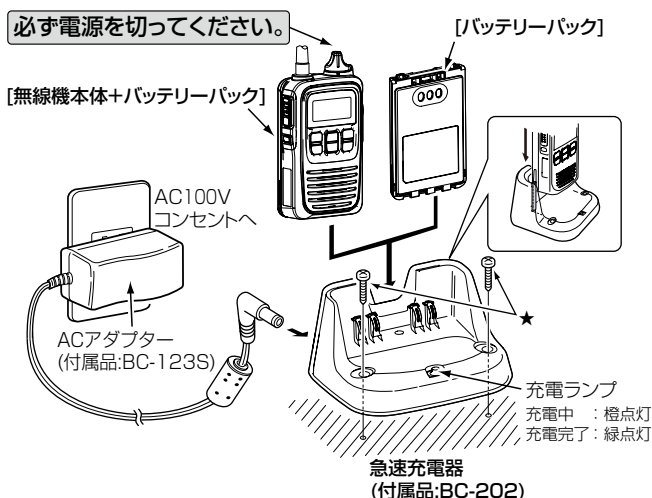
アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池の残量表示は「**■**」のままです。

4 別売品とその使いかた

■ BC-202(急速充電器)で充電するには

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

- ◎充電中は、必ず本製品の電源を切ってください。
電源が入ったまま充電すると、正常に充電しないことがあります。
- ◎バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。
- ◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
※橙色で点滅する場合は、5-2ページの「■ 故障かな?と思ったら」をご覧ください。
- ◎充電が完了したあと、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に再充電を開始します。
※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。
※充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

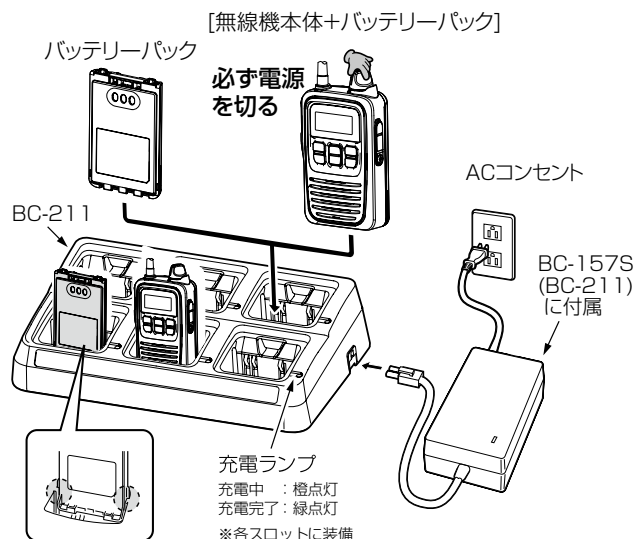


★固定されるときは、市販のタッピングネジ(2本: 3.5×30mm)をご用意ください。

■ BC-211(6連急速充電器)で充電するには

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

- ◎充電中は、必ず本製品の電源を切ってください。
電源が入ったまま充電すると、正常に充電しないことがあります。
- ◎バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。
- ◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。
※橙色で点滅する場合は、5-2ページの「■ 故障かな?と思ったら」をご覧ください。



4 別売品とその使いかた

■ BC-202IP2(急速充電器)で充電するには

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

◎バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。

◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

充電が完了すると緑色に点灯します。

※橙色で点滅する場合は、5-2ページの「■ 故障かな?と思ったら」をご覧ください。

◎充電が完了したあと、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に再充電を開始します。

※BC-202IP2で充電する場合、電池容量の約90%になると、充電が完了(充電ランプ：緑点灯)します。

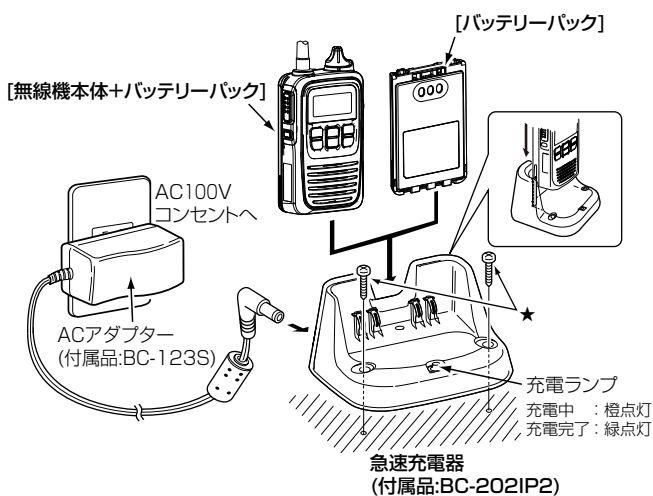
BC-202やBC-211で充電したときより、少し運用時間が短くなります。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

※本製品の電源を切らない状態での充電を繰り返すと、バッテリーパックの寿命が短くなる場合があります。

※直射日光のあたる場所や炎天下の車内など、高温になる場所での使用、放置はしないでください。



★バイブレーション機能を併用される場合は、図のように充電器を固定してください。

なお、固定されるときは、市販のタッピングネジ(2本：3.5×30mm)をご用意ください。

※バッテリーパックの残量がない場合は、本製品の[電源/音量]ツマミを回して電源を切った状態で充電器に差し込み、30分以上充電してから電源を入れなおしてください。

4 別売品とその使いかた

■ BC-202IP3L(急速充電器)で充電するには

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

◎バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。

◎充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

充電が完了すると緑色に点灯します。

※橙色で点滅する場合は、5-2ページの「■ 故障かな?と思ったら」をご覧ください。

◎充電が完了したあと、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に再充電を開始します。

※BC-202IP3Lで充電する場合、電池容量の約90%になると、充電が完了(充電ランプ：緑点灯)します。

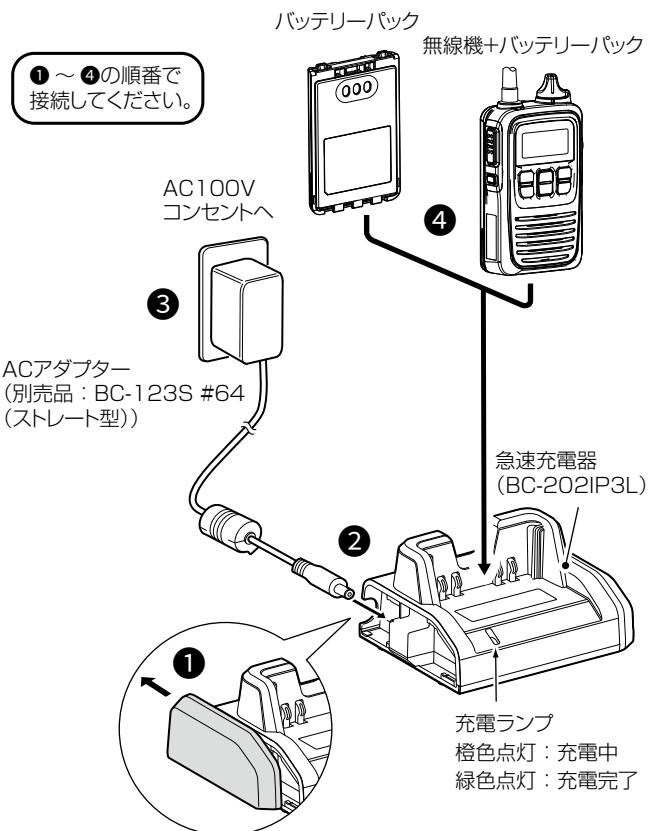
BC-202やBC-211で充電したときより、少し運用時間が短くなります。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

※本製品の電源を切らない状態での充電を繰り返すと、バッテリーパックの寿命が短くなる場合があります。

※直射日光のあたる場所や炎天下の車内など、高温になる場所での使用、放置はしないでください。



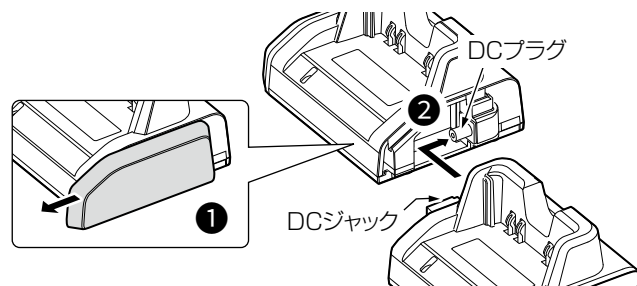
4 別売品とその使いかた

■ BC-202IP3Lの連結充電について

充電器を最大6台まで連結して、同時に充電できます。

【連結のしかた】

- ① 充電器右側面のカバーを取りはずします。(①)
- ② 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器(左側面)にあるDCジャックを「カチッ」と音がするまで差し込みます。(②)



△警告

下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、故障の原因になります。

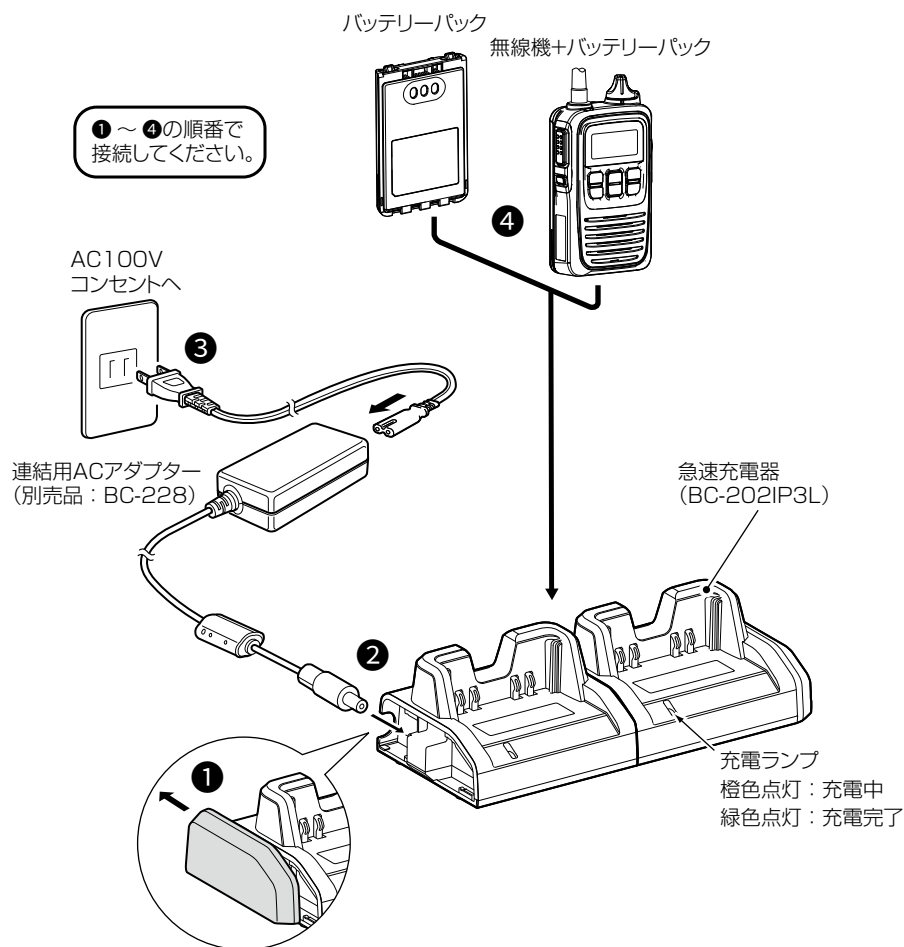
◎BC-202IP3Lを連結できるのは、6台までです。

※7台以上連結して充電しないでください。

◎BC-202IP3Lを複数台連結する場合、電源は必ず連結用ACアダプターBC-228をご使用ください。

※BC-123S #64(ストレート型)は、BC-202IP3L単体で充電する場合に使用できるACアダプターです。

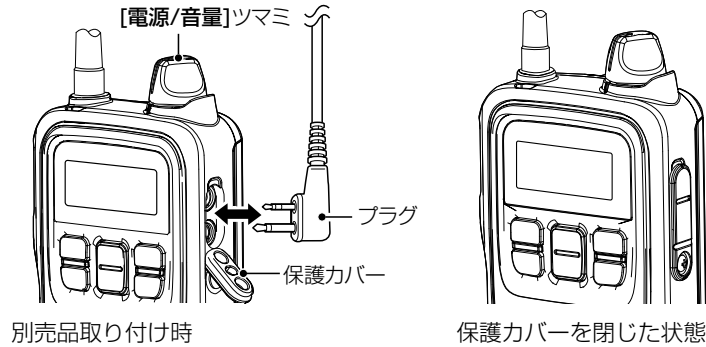
例) BC-202IP3Lを2台連結した場合



4 別売品とその使いかた

■ 別売品の接続について

- ◎接続ケーブルを抜き差しする前に、本製品の電源を切ってください。
- ◎プラグ本体を持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、プラグを接続するときは、奥まで確実に差し込んでください。
- ◎防水性能の維持と端子保護のため、別売品を接続しないときは、しっかりと保護カバーを閉じた状態でご使用ください。



HM-104/HM-104A ^{*1※5} 単一指向性/無指向性タイプ型 マイクロホン 	HM-153LS/HM-153 ^{*2} イヤホンマイクロホン  HM-153LS 複信通信対応	HM-166LS/HM-166 ^{*2} イヤホンマイクロホン  HM-166LS 複信通信対応	HM-183LS 防水形スピーカーマイクロホン 	HM-186LS/HM-186 ^{*2} 小型スピーカーマイクロホン  HM-186LS
HS-85 ^{*2} (VOX機能 ^{★1}) VOX機能付きヘッドセット  複信通信対応	HS-88 ^{*1} ヘッドセット (生産終了品) 	HS-94 ^{*3※4} (VOX機能 ^{★2}) イヤーフック型ヘッドセット 	HS-95 ^{*3※4} (VOX機能 ^{★2}) ネックアーム型ヘッドセット 	HS-97 ^{*3※4} (VOX機能 ^{★2}) 咽喉マイクロホン 
HS-99 ^{*3※4} (VOX機能 ^{★2}) 耳かけ型イヤホンマイクロホン 	HS-102 ^{*6} イヤホン型ヘッドセット  複信通信対応	SP-13 ^{*2} イヤホン 	SP-28 耳かけ型イヤホン 	SP-29 ^{*7} 耳かけ型イヤホン 

- EH-14** オープンエア型イヤホン
- EH-15** イヤホン
- EH-15B** イヤホン(黒色)
- SP-16**^{*7} 耳かけ型イヤホン
- SP-16B**^{*7} 耳かけ型イヤホン(黒色)
- SP-16BW**^{*7} 耳かけ型イヤホン(黒色/ロングケーブル)

※1 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
 ※2 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
 ※3 VOX機能を使用する場合は、OPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)が必要です。
 ※4 通話スイッチを使用する場合は、OPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
 ※5 EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。
 ※6 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
 ※7 OPC-2375LS(イヤホン専用変換ケーブル)が必要です。

★1 コントローラー側でVOX機能を「無効」にする必要があります。
 ★2 VOX機能を使用する場合は、コントローラー側でVOX機能を「有効」にする必要があります。

この章では、
困ったときの対処方法、仕様などを説明しています。

■ 故障かな?と思ったら	5-2
■ アフターサービスについて	5-3
■ 一般仕様	5-4
■ 音声部	5-4
■ 無線LAN部	5-4
■ BC-202 急速充電器(別売品)	5-5
■ BC-202IP2 急速充電器(別売品)	5-5
■ BC-202IP3L 急速充電器(別売品)	5-5
■ BC-211 6連急速充電器(別売品)	5-5

5 ご参考に

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.5-3)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	端子の接触不良	バッテリーパック、またはバッテリーケースの端子を清掃する なお、バッテリーケースをご使用の場合は、電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または電池の消耗	バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.1-3
	受信音声ミュート機能が設定されている	[オプション] キーを長く(約1秒)押し、受信音声ミュート機能を解除する	P.2-2
通話できない	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P.2-4、 P.2-5
相手から応答がない	無線アクセスポイントとの距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	—
	圏外(点滅)になっている		
	相手局が不在、または電源を切っている	相手局の状態を確認する	
スイッチやキーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.1-7
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している(BC-202、BC-211の場合)	無線機の電源を切った状態で充電する	P.4-6
充電中に、充電器のランプが橙色で点滅、または橙色/緑色で交互に点滅する	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	バッテリーパックを差し込みなおす	P.4-6～ P.4-7
	0℃～40℃以外の環境で充電している(BC-202の場合)	0℃～40℃の環境で充電する	P.4-4
	10℃～40℃以外の環境で充電している(BC-202IP2、BC-202IP3L、BC-211の場合)	10℃～40℃の環境で充電する	
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	
	無線機の電源を入れた状態で充電している(BC-202、BC-211の場合)	無線機の電源を切った状態で充電する	P.4-6
バッテリーパックが差し込まれているのに充電ランプが消えた	バッテリーパックが正しく差し込まれていない(BC-202、BC-202IP2、BC-202IP3L、BC-211の場合)	バッテリーパックを差し込みなおす	P.4-6、 P.4-7
圏外(点滅)、または「接続試行中」と表示される	無線アクセスポイント側でANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能を設定している(5GHz帯利用時)	無線アクセスポイント側の設定を変更する	—
	無線アクセスポイントとの距離がはなれすぎている	場所を移動してみる	
	無線アクセスポイントの電源が入っていない	無線アクセスポイントの電源を入れる	

※バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックが故障している、または寿命に達していることがあります。(P.4-4)

お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

5 ご参考に

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.5-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：https://www.icom.co.jp/

5 ご参考に

■ 一般仕様

使用温度範囲：-10～+60℃

湿度：90%以下(結露状態を除く)

外形寸法：58(W) × 95(H) × 26.4(D)mm (突起物を除く、BP-271装着時)

重量：約205g (アンテナとBP-271を含む)

電源電圧：7.4V (BP-271使用時)

消費電流：平均 150mA以下

(送信時：100mA、受信時：150mA、待機時：50mA)

■ 音声部

音声符号形式：G.711 μ -law (64kbps)

低周波出力：400mW以上(内部スピーカー 16 Ω 10%歪時)
200mW以上(外部スピーカー 8 Ω 10%歪時)

低周波負荷インピーダンス：内部スピーカー 16 Ω /外部スピーカー 8 Ω

■ 無線LAN部

無線通信規格：IEEE802.11n/a/b/g 準拠

セキュリティ：WEP (64/128bit)、
WPA-PSK (TKIP/AES)、
WPA2-PSK (TKIP/AES)

チャンネル数：2.4GHz帯 13チャンネル
5GHz帯 19チャンネル

プロトコル：TCP/IP

送信出力：10mW/MHz以下

定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

5 ご参考に

■ BC-202 急速充電器(別売品)

入力電圧 : DC12～16V ※BC-123S (BC-202付属ACアダプター)使用時
使用温度範囲 : 0～40℃
重量 : 約104g (ACアダプターを除く)
寸法 : 88.0(W)×47.5(H)×72.5(D)mm

■ BC-202IP2 急速充電器(別売品)

入力電圧 : DC12～16V ※BC-123S (BC-202IP2付属ACアダプター)使用時
使用温度範囲 : 10～40℃
重量 : 約105g (ACアダプターを除く)
寸法 : 88.0(W)×47.5(H)×72.5(D)mm

■ BC-202IP3L 急速充電器(別売品)

入力電圧 : DC12～15V
使用温度範囲 : 10～40℃
重量 : 約120g (ACアダプターを除く)
寸法 : 106.5(W)×52.5(H)×78.0(D)mm ※単体時

■ BC-211 6連急速充電器(別売品)

入力電圧 : DC12～16V ※ BC-157S (BC-211付属ACアダプター)使用時
使用温度範囲 : 10～40℃
重量 : 約1200g (ACアダプターを除く)
寸法 : 303.2(W)×78.2(H)×179.7(D)mm (突起物を除く)

定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

さくいん

B		近隣呼出	3-4
BC-202	4-4, 4-6		
BC-202IP2	4-4, 4-7	こ	
BC-202IP3L	4-4, 4-8, 4-9	個別呼び出し	2-5
BC-211	4-4, 4-6		
BP-273	4-5	し	
		充電時間	4-3
C		充電ランプ	4-6, 4-7, 4-8
[CLR/LOCK]キー	1-6	受信音声ミュート	2-2, 3-8
CS-IP100H	4-2		
		す	
F		ステータス	3-3
[FUNC]キー	1-6, 3-2, 3-4, 3-7		
[F]表示	1-5	そ	
		送信先	3-2
I		[送信/受信]ランプ	2-2
IP表記	ii		
		つ	
L		通話できない	5-2
Lone Worker機能	3-12		
		て	
P		電源が入らない	5-2
Pベル機能	3-9	電源を切る	2-3
		電源を入れる	1-3
V		電池の残量	1-5, 1-7
VOX機能	3-10	電話切断	3-8
		と	
あ		トークグループ	3-5
相手から応答がない	5-2		
[アドレス帳]キー	1-6, 2-4, 3-7	は	
アンテナ	1-2	バイブレーション機能	2-2
		バックライト機能	2-3
う		バッテリーパック	1-2
運用時間	4-3	寿命	4-4
		膨らみ	4-4
え		ハンドストラップ	1-2
エマージェンシー	3-8, 3-11		
		ふ	
お		ファームウェア	1-5
音が聞こえない	5-2	複信通信	2-3
[オプション]キー	3-8, 3-11	プレゼンス	3-3
音量を調整する	1-3		
		へ	
き		別売品	4-2
キーロック	5-2	ベルトクリップ	1-2
緊急呼び出し	3-8, 3-11		

さくいん

ほ

ポケットビープ機能…………… 3-9

め

メッセージ…………… 3-2, 3-8

メッセージを確認する…………… 3-3

り

履歴…………… 2-5

[履歴]キー…………… 1-6, 3-3, 3-11

履歴の消去…………… 2-5

れ

連結充電…………… 4-9

連続送信…………… 2-2

ろ

ロック機能…………… 1-7

わ

ワンタッチ…………… 3-8

高品質がテーマです。



Radio Communication Solutions

株式会社 ジャパンエニックス

JAPAN ENIX CO.,LTD.

- 本 社 東京都品川区南品川 2-7-18 TEL 03-5715-2351
- 関 西 支 店 大阪市西区千代崎 1-24-11 TEL 06-6583-7700
- 札 幌 営 業 所 札幌市東区苗穂町 3-4-18 TEL 011-733-6120
- 仙 台 営 業 所 仙台市若林区白萩町37-25 TEL 022-290-9381
- 名 古 屋 営 業 所 名古屋市東区葵2-3-15 TEL 052-908-1440
- 九 州 営 業 所 福岡市博多区豊 1-10-50 TEL 092-432-9077